

記夕 日十二月三

常磐毎日新聞

定価 一部五銭 全五銭 郵費五銭
廣告料五銭 十二字一円 五字五銭
日曜祭日の日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞社

創作



裏山

津賀 固志

故郷の遠山に雪が消えても私はもう少年の日に歸るすべもない。

風の冷たい寒の夜、炭火を圍んで敬愛の君をしみつゝ語ひながら私の胸は何か知らず急にこみあげて来た。今は歸らぬ夢戀しさに夜着の上に、腹這ひになつて泣いたのもついで此の間の事の様である。

美しくも澄んだ君の深い瞳を見守る時、それは私の心がその昔日に還る唯一のすべである。思へばやさしさ「私」と云ふ一個の人間だ。

たうもろこしの葉っぱがさや／＼葉づれの音を立てる頃の秋の暮方、町の中學から一里の田舎道に向つて私は何時もの様に淺間の峰の夕煙とその果ての果ての紫紺の卷雲を、真向ふに眺めながら我家への歸途だつた。

空腹と疲れと、やうやくたどり着いた家の門前によ

と足を止めて……その一瞬私は餘りの事に思はずよめいたのである。

無！無！無！

今朝まで堂々としてゐた私の家が、今はその瓦一枚の跡形さへ無いのだ、なやじ變り果てた我が家よ、倉の横手の柿の實だけが、うらめしさうに土塀越しに黙つて私を見つめてゐる。

その柿の實とにらめつこしながら、私は手に持つた

◆○○○○○○○○○○
○明日の献立○
◆○○○○○○○○○○

【朝】味噌汁 さつま芋 小付 こんぶ佃煮

【晝】ぼたん餅
ほうれん草おひたし
【晩】潮汁：蛤 厚焼き玉子 おろし大根

運動靴を顔になすりつけておろし泣き出してしまつた。考へて見れば中學二年か四年の私である。

「おい 禮一君」
「……」
「泣くやつがあるものか、そんな小ぢやな事に泣くやつがあるものか」

何時か親友の竹彦君がしつかりと私の肩をかゝえてゐたのだつた。

「輝一つ……體操の先生がよく云つた……男らしい言

葉じやあないか」

「君がどんなに困つた時だつて僕がついてゐるんだよその代り僕の困つた時には君が力になつて呉れるつて何時かも約そくしたじやないか」

「竹彦君 有難う」
「君が泣くから僕までへんになるんだよ」
「僕のおやじ、やつぱり相場がたつたんだ」
「うん、然しなんでもないよ、そんなこと」
「僕、つい泣いちゃつたして……」

「結構だよ、輝かしい將來を夢見て感激して泣いたんだらう」
「うん、そうなんだ」
私は急に嬉しくなつてにこりした。

「禮一君、泣きたくなつたら僕んとこへ来て泣きたまへ、ほら此の手を君のためなら何時でも喜んで借してやるんだ」

私は思はず無意識に彼の両手を強く握り返した

たくましい大きい彼の手の温い感觸に感激しながら結ばれた二つの手の甲の上に新らしい涙が溢れ落ちた。

彼も又私の顔をしみじみと何時までも見つめながら双のまなこに涙を一杯ためてゐた。

奉祝平町鎮座縣社子鈿・稻荷神社 廣告祭假裝行列大會

一、四月十七日(宵祭) 参加店主參列商運隆盛祈願式
二、四月十八日(渡御祭) 廣告假裝行列町内行進の上審査會を縣社境内に於て行ふ

一、賞品
一等榮譽ある平町長優勝旗並に賞金拾圓副賞付、二等以下十等迄高級賞品を進呈、参加者には中食付記念品進呈
時間、行列行進順序、審査員、賞品其他追つて詳報す。奮つて御参加を乞ふ

後援 平町役場 縣社子鈿倉神社 平各新聞社 高木新報社 喬

1936 御入學・御進學

美事な ファイン・プレー
をなされた御愛兒様へ!!
小店にては聊か右御祝と日頃の御愛顧に酬ゆる爲左記の通り奉仕特賣致します。記念として何卒御用命の程伏して御願ひ申上ます。
旅行と實用とを兼ねた 責任保證附 腕時計
定價 金七圓五十錢ヨリ (ゴム又は皮バンド附)
萬年筆 定價 八十錢 ヨリ
ビクター・コンピニア ボリドール
特約店 金光堂時計店 平町五丁目

第一學年 臺百名 出願期 四月四日まで
第二學年 若干名 新學期 四月四日より
受驗科生 若干名
創立 卅年 生徒募集
平町城山 磐城青年學校
學費低廉、獎學金の給與、基礎益々鞏固、内容年と共に充實、鐵道其他受驗講座特設

生徒募集

(一)本科 五十名 (二)裁縫專修科 百名
(三)專攻科 三十名 (四)師範科 二十名
(五)本科裁縫專修科第二學年補欠若干名
文部大臣 藤田女學校 認可
一、願書受付 三月三十日まで
二、詳細ハ學則請求ノコト
平町田町(電話三二八)

生徒募集

常磐私立の最高權威
内容設備の躍進向上
三千餘名の卒業生の社會的活躍
燦たる二十有餘年の歴史的貢獻
磐城佑賢學舎 電九三番
○中堅國民は佑賢 中等科より
○受驗難關突破は佑賢 專修科より
新學年より舎長令息
東京帝大 大和田忠良氏就任
法學士

躍進日本の女性に!!

婦人の職業として、家庭の衛生學として
産婆看護婦を御奨め致します
それには成績の最もよいと定評のある
平南町 産婆看護婦學校へ
○申込み成るべく早く
○新學期の開始は四月八日より
平産婆看護婦學校
校長 清野キヨ
(電話三〇七番)

和漆器と家具は 和弁屋

平町五丁目
電話四〇五番

寺参り途中

可憐な武者修業

日頃の訓練を如實に顯現

健兒が跳躍

平町少年團は明廿一日の彼岸の中日に當り健兒の精神生活の重要な点の一つである祖先崇拜の思想を鼓吹する一助として健兒の菩提寺を巡歴禮拜することになり同日午前九時第一小學校々庭に集合、團旗を先頭に出發、長源寺から九品寺、照岸寺を詣でて後本町通りを行進、良善寺より菩提院、明賢寺、青雲院、性源寺等の順路に依つて一巡するが、尙當日は長源寺一九品寺明賢寺一青雲院に至る間の行進を武者修業と名づけて同團員が日頃訓練された追跡記號、合圖並に團杖とロープの使用方法等の演習を試みる事になつたが昨年来創立以來鍛え抜いた健兒の腕前が充分に發揮出来る初めての街頭進出の事として可憐な健兒達は非常な張り込みで明日を待ち構へてゐる

初めの街頭進出

凶作対策に

耕種改良を企つ

郡下の山村で座談會

石城郡農會では昨年度の天候不順による凶作事實に鑑み之が打開策を種々講じて來たが左記の如く耕種改善座談會を郡内山間地方で催すことにした、尙講師は青山技師、吉成柴田兩技師である

△廿五日川前小白井 同村上桶賣△廿六日同村高部 田人組合 南大平 同村下桶賣△廿七日田人組合入松入△廿八日蒔

組合擴充

總代が協議

平庶民金庫は来る二十五日午後一時から組合事務所に於いて總代會を開き組合員新加入募集勧誘方法等に就いて協議する

貨物列車

臨時運轉

平驛では貨物類輻輳の爲め四月一日から五月卅一日迄平一原ノ町間に臨時貨物列車を運轉する

剣道四段

昇格決定

過般平署演武場に行はれた剣道階級試験の結果郡内左

公會堂の敷地を

決定する打合せ

廿七日に最後の委員會

平町公會堂委員會は廿七日午後一時から會議室に開き土地價格その他の調査を持ち寄つて最後の敷地決定に至る打合せを行ふ筈

手離米が

急に激増

既報來る廿三日の平農業倉庫の共同販賣は本二十日を以つて締切るが本日午前中の出荷数は千八百五十九俵の大量で本年は農家經濟の好轉から持米手離が例年より遅れたので今になつて急激な出荷を見たものである

躍進平の紹介に

各地博覽會へ出陳

蒸カマドや玩具類等

平町は近年特産品蒸カマド及び玩具類が非常な生産の進出を見せ各地で好評を博して居るが町當局は各地に開催される博覽會へ木工品等と共に出品し躍進平の工業を廣く紹介宣傳することとなり關係者と協議の上左記博覽會に算筒、蒸カマド玩具等を出品する事になつた

平青年學校の

成績優良其他

平町青年學校の卒業式は既報の如く今二十日午後七時より平第一小學校講堂で舉行されるが教育會の受賞者其他左の如し

- △部會賞瀧正義 鈴木泰久 △後援會賞齋藤二郎
- 伊藤正雄 大和田茂 眞田朝春 小野利重 猪狩泰治 井幡忠夫 △精勤賞瀧正義 大和田茂 眞田朝春 猪狩泰治 井幡忠夫 遠藤明 小野利重 阿部健治 佐藤卓助 岡崎達雄 眞仲正雄 片寄長明 大間政一 齋藤常吉 吉野弘泰 佐久間末信

競技會に平地方各驛よりの参加者は左の如く決定した(平)高橋長次郎 渡邊勇 若松長次(綴)山野邊長男 大和田義明(湯本)北條義雄(泉)高木清八(植田)楠田直彦(勿來)佐竹幸吉

臨時出納検査

平町は廿六日午前十時より臨時出納検査を執行することになつた

平町人事

△出 生
△六間町一五吉田幸三郎氏
△二男善次郎さん
△鷹匠一四小野〇三氏三男 幸盛さん

△回 婚
△茨城縣那珂郡平磯町一三三八海原新次郎氏(三五) 櫻町三三國玉タケさん

△農夫 廿五才迄 給八圓
△回職を求める方
△電工 廿三才 高卒
△自動車助手 廿才 高卒
△小守 十才 尋修
△洋服裁縫 卅六才 尋卒

新入學用品陳列

健正ランドセル 通學用運動靴
學生ボージ 手提カバン 其他

●堅牢本位に厳選せる優良品揃●

ツルヤ

平四 電一四〇

中等教科書

國定教科書

中學校指定背箋
小學生ランドセル
カバン、手提類

練習各種辭書
各種余科類
豊富に取揃へました

マルトモ店
柴田書店
電話(二三四)番

△漁夫 五十才迄 月給卅
▽コック見習 廿才迄 尋卒 月給五圓

平職業紹介所報告

回 人を求める方

△雑役 廿才前後 尋卒

給料面談

△月給五圓

△漁夫 五十才迄 月給卅

濃霧に災されて

漁船が衝突

定勝丸遂に沈没

漁夫は相手の遠盛丸が救助

引揚作業仲々困難

十九日午前四時卅分頃茨城縣平磯町字磯崎沖合五十二哩の海上で航行中の豊間村大字豊間漁業組合長遠盛丸(三郎所有船遠盛丸(二八噸))と江名濱町字下町金成定吉所有船定勝丸(二六噸)が激浪に翻弄され濃霧のため進路が不明になり激突し定勝丸は其儘沈没して

乗組員二十四名が海中に轉落したが直に遠盛丸が全部を救助、同日午後四時江名濱港に歸港した。尙

負傷者は一人も無かつたが沈没場所が約四百四十哩の深海のため引揚げは困難と見られてゐるが江名濱町では昨十九日夜同町漁船三隻が先發隊として出發本廿日同漁船七隻が遠盛丸に引率されて現場に向つて出發した、損害は定勝丸約一萬圓、遠盛丸は約百圓餘の見込みで沈没した定勝丸の横ッ腹へ遠盛丸が激突したものであると

大人も及ばぬ

指頭の妙技

珠算競技入賞兒

平第一小學校の珠算競技會は昨十九日午前十一時より同校講堂で催され級代表の小さき選手達が大人も及ばぬ指先の妙技を競つたが各學年五等までの入賞者左の如し

(五年)小野重信 石川榮
一 増子正三八 園井邦

男 豊田聰明(六年)龜山
正邦 岩崎宏次郎 小齋
宗司 小山田俊夫 小齋
實(高一)鈴木武 佐藤滿
夫 松本友彌 會川和三
郎 加賀卯一(高二)武藤
金吉 佐治啓三郎 小谷
磐夫 加藤浩平 大金一
男

高月旬會開く 高月旬會では廿廿日午後六時より平町柳町土岐紅葉庵で旬會を開く

偽りの自首

懲役二年求刑

既報住所不定無職相馬郡八幡村大字成田字五右衛門橋生小野木光夫(三)が過般奮悪の露顯を恐れて平署に偽りの自首をした事件は廿日平區中島裁判長係り清田検事立會公判開廷懲役二年を求刑された、尙同人の罪状は

庫を窃取、鹽釜町浦鉾製業業鈴木多清治方へ雇はれ中前掛を購ふため渡された現金十圓を拐帶逃走したものである

篤農家の表彰

草野村の篤農家高木誠一氏は十年度農林統計員として優秀な成績を挙げたので十九日付を以て農林省より選奨され近く銀盃を授與される

仲人が訴へられる

婿の世話に誠意がない 飲たり食たり借り倒し

上小川村大字上小川字井郷内二二無職倉安太郎こと小林清太郎(三)は去る一月中から前後數回に亘つて平町大町一五大村勝太郎の娘に婿を世話すると稱して酒食の御馳走を受けた外現金十圓を騙取しその後少しも

明日のラジオ

廿一日

今晩は晴明日も同様

「トム・ソウヤーの冒険」
伊藤薫他
後八、四〇 童曲宮城芳子
後九、〇〇 時事解説「新閣内の經濟政策其他」阿部賢一
後九、三〇 時報 ニューズ
明日の話題 番組

明日のラジオ

前七、三〇 小鳥の啼聲
前九、三〇 うたのおけい
「こ子供のテキスト三月号特選童謡」黒澤貞子
前一〇、〇〇 座談會
故人となつた政治家を語る「富田幸次郎他」
前一一、二〇 彼岸會法要
浄土宗大本山増上寺より
後〇、五〇 雅樂宮内省樂部
後一、一〇 琵琶合奏「櫻狩烈女山邊采女」安部旭洲他
後一、四〇 義太夫「傾城

騒がれて

未遂男捕る

三坂村大字上三坂字水田八二日雇業松本友治(三)は去る三月十二日午前十一時半頃赤井村大字赤井字畑川瀬炭礦坑夫長屋の水野廣大方不在を見越して忍び込み廣太の妻ふち(三)に怪しかぬ振舞に及ばんとしたが騒がれてその儘逃走せんとしたと日取りを變更した

地方商店を食ふ

詐欺漢の本據を嚴探

出鱈目な毛糸再生器

平町四丁目四七雜貨商橋本義治商店では去る一月中突然訪れた東京市本所區吾嬬橋東隈田越前屋外交員と稱する關安雄に毛糸再生器二百八十八ヶ價格百七十一圓八十錢を注文して手附金十圓を手渡しした處送付された機械が見本とは全然別製の粗悪品なので驚いて前記越前屋に照會したが該商店は既に移轉して居所不明とな

△二燒さ

告訴沙汰

内郷村大字宮字町七七七賣炭商吉田信夫(五)は昨年十二月平町南町六一のんき盤で負傷の末手當金八百七十圓を近く貰ふことになつゝあるが貴店をやつてゐる△二燒を始めたい稱して店舗修繕料六圓を借り外に同修繕料一圓分を持つて行つたまゝ言を左右して約束を履行せぬため松本から廿日平署に告訴された

平裁判たより

△石城郡四倉町字町頭四料理業伊藤駒次郎(三)が去る四日午後十一時頃同町志津鈴木兵五郎外十二名を集め十丹賭博開帳し同人等より寺錢を收めた事件は廿日午前九時より平區香西判事係り清田検事立會公判開廷賭博開帳並に常習賭博罪で懲役六月を求刑された言渡しは来る廿三日午前十時

平局市外電話 平郵便局市外電話線は今回長野



瓦解の謎

悟道軒圓玉(作)
尾至陽(書)

七七 待ち合す美人

駕から出た御用達風の人物はズイと誰ケ袖に入つて来て女中に向ひ

男「此方に女が參つて居るはずだが」

女中「ハイ、先刻からお待ち申して居ります」

男「その座敷へ通してくれ」

女中「こちらへ入らつしやいませ、おきよさんお供さんにお茶を……さア何うぞ旦那様こちらへ」

表二階の六疊に案内したもう夜分のこととそれには燭臺が出てゐる

女中「御新造様おつれ様がお出でになりました」

女「オヤさう、まア貴下大層御ゆつくりでございませぬね」

男「イヤ種々用事が立混んで居つたためにおそくなつたよ、女中衆大分肴があれ

てもらひたい、それにちとおそくなるから供は歸してくれ」

女中「ハイ長まりました」

男「お前の供もかへしたよからう」

女「さうでございますね、それでは姐さん私のつれて来た若い者も歸して下さい」

女中「ハイ、宜しうございます」

女中が立つて行かふとす

それを待つて下に行き
女中「お内儀さんお茶代をくださいました」
内「オヤさう、大層重いね」
紙を破いて見ると甘雨ある、その當時の甘雨は大金です、大概待合茶屋の茶代は一步、少しはづんだとこゝろで二歩、一兩出す人はめつたにない、それが甘雨、お内儀も驚いた、女中は帯の間に入れて置いた御祝儀をあらためると二歩金で二兩ある、これも莫大、普通は二歩位なもの、二兩とい



男「ちよつと待つておくれこれは茶代だ、それにこれはお前がたに……」

と云ひながらオランダ羅紗の紙入から金を出してそれを紙に捻つて渡した

女中「有がたう存じます」

内「わたしもさうだと思つてゐるが、然しかういふお客様が来なければお茶代も澤山は貰へないね」

女中「さうでございますよ、ちよいとお供さん、旦那や御新造様はおそくなるから歸つても宜いとおつしやいませしたよ」

供「あ、さうでございますか、それではお先へ御免蒙ります」

籠昇も供のものも歸つてしまつた

女中「何かうまい物をといふ注文ですが」

内「さうさね何が宜いだろう、お口に合ふやうなもの

を瀧田屋へさういつておいで、それは宜いが、奥の旦那方のところへ二人ばかり行つてゐなければいけないよ」

女中「おきよさんとおかまさんが出て居ります」

内「さうかえ早く行つてお出で」

詠物をした、この表二階の客は青木彌太郎にお花の二人、御用達に化けて来た思ひ切つて茶代をやつて二人があひびきでもするやうに見せておいた、かれこれする内に新堀の瀧田屋といふ料理屋からうまい物が入つて来た、女中がお酌をしてゐると下からとん／＼と上つて来た一人の女中が

甲「おきよさん奥のお客様が呼んでゐますよ」

おきん「さう、旦那様まことにすみませんが」

青「あ、宜いとも、用があつたら呼ぶから」

女中「左様でございますか御新造様おそれ入りますが……」

はな「ア、宜うございますよ、用があれば遠慮なく呼びますよ」

女中「御免下さいませ」

出て行つた、これは帳場で氣を利かしたものの……

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませんか

本會を御利用下さい

直に家政婦派出します

親切 料金は極めて低廉で

妊産婦の御家庭 留守 居番 御病人の 付添 年寄やお子さんの付添 炊事や 雑用

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話二二三番)

上原家政婦會

會主 産婆 上原通子

南町成田山新榮講

當講主水津秀次郎過般死去の爲め講務の整理中講中集金も閉却致し各位の御心勞を煩はし候處從前通り四月一日參詣團體出發致すべくに付此段御報告申上候

三月十九日

成田山新榮講

春が来た!

春は カメラだ MSだ!!!

卒業記念に 初めませう 今直ぐに 進級記念に

良く寫るので評判の 暗室 不要 MS カメラ

少年用 一組三十錢より 大人用 一組二圓より

十二圓迄

MSカメラ 特約店 いづみや玩具店 平野前

産婆看護婦 募集

願書締切 四月五日迄

平町一丁目

平町搔樋小路一番地に新築移轉す

石城 産婆 看護婦 學校 電話三五七番

福島縣平町二丁目

西村屋薬舗

薬劑師 鈴木堅助

電話 三三番 振替(東京六)二九九 一〇一